

## 糖尿病腎症 2 期患者に対する検査説明の効果

◎加藤 俊哉<sup>1)</sup>、畑中 徳子<sup>2)</sup>、木下 真紀<sup>1)</sup>、下村 大樹<sup>1)</sup>、嶋田 昌司<sup>1)</sup>、上岡 樹生<sup>1)</sup>  
公益財団法人 天理よろづ相談所病院<sup>1)</sup>、学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学<sup>2)</sup>

【目的】当院臨床検査部では、糖尿病腎症 2 期の患者に対し、検査説明（対面で、腎症の病期、進行の予防法、検査値とその意味など）を実施している。検査説明は、患者の自己管理意識を高め、不可逆的な機能障害となる腎症第 3 期への進行を抑えることを目的としている。これまで実施してきた検査説明が患者の予後に影響を与えたか調査した。

【対象】2015 年の 1 年間に腎症 2 期となった患者のうち、医師が検査説明の受講を勧め、希望した患者 365 人、および説明を実施しなかった 193 人の計 558 人を対象とした。

【方法】1. 腎症進行の違い：腎症 3 期および 4 期への進行を説明有り、無しの 2 群に分けて Kaplan-Meier 曲線にて比較した。2. 関連因子解析：観察期間と腎症 4 期への進行の有無を目的変数とし、説明変数に検査説明の有無と検査データを用いて Cox 比例ハザード回帰分析を行った。

3. 長期間変動：検査値を説明直前から半年ごとに比較し、Wilcoxon 検定をした。検査値としては 5 年間の HbA1c、尿 Alb/Cre 比、UN、Cre、eGFR、Cho、HDL-Cho を用いた。

【結果】1. 腎症進行の違い：3 期への進行は説明有りです

くなる傾向がみられ、4 期への進行は説明無しが説明ありより有意に早かった ( $p < 0.001$ )。2. 関連因子解析：4 期への進行について、説明有りの相対リスクは 0.470 であった。3. 長期間変動：説明有りでは、HbA1c と尿 Alb/Cre 比で 1 年半後までは説明直前に比べ有意に低値となったが、説明無しでは、いずれの検査項目にも有意差はなかった。

【考察】糖尿病性腎症患者に対する検査説明は腎症進行の抑制に寄与していることが示唆された。当院では糖尿病と診断された直後から糖尿病教室や栄養指導など患者教育を積極的に実施しており、教育を終えてから検査説明を受けていることが効果の一因であると考えられる。適切な患者に対し適切な時期に、検査値の意味や目標とする HbA1c の値などを提供することが、患者の自己管理に有効に働いたと考えられた。長期にみたアプローチについては今後の課題とする。

【結語】糖尿病性腎症患者に対する検査説明は腎症進行の抑制に寄与している可能性があった。0743-63-5611(7435)